

# くらしの目線で市政を変える

## こんにちは

### 日本共産党

## 市会議員

# 西野さち子です



# 力あわせてまもろう憲法9条!!消費増税ストップ!!

## いのち・くらしを守る政治へ全力!!

### 2013夏の参院選へスタートダッシュ!

この夏の参院選での前進をめざして1月から行動中です。

18日には、倉林明子参院京都予定候補とともに宣伝や商店街訪問などで奮闘。「改憲勢力が増えてこわいね」「消費前が上がったらホンマに困る」

など安倍政権への不安とともに「原発ゼロへあきらめたらアカン」「へこたれんとかんばりや」など力強い激励も相次ぎました。

増税も原発再稼働も、国民は「イエス」ではありません。新しい政治を求めるみなさんと力をあわせて、命と暮らしを守る政治実現へ、今年も全力で頑張ります。



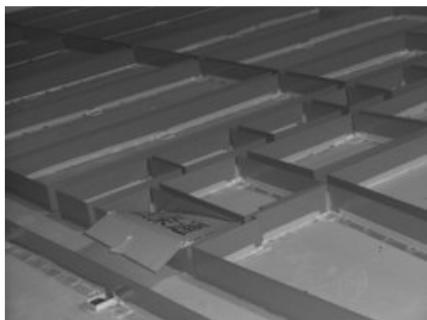
倉林予定候補と宣伝する馬場府議と西野さち子市議

## 市政報告

### 京大防災研がセンター視察

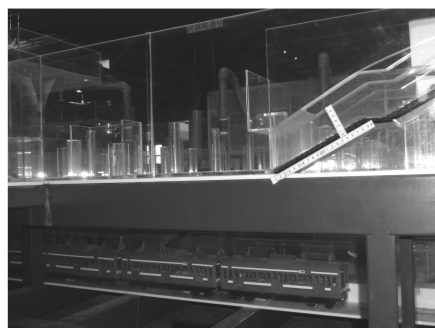
(まちづくり部員)

1月10日の今年最初のまちづくり委員会は現地視察を行いました。



伏見にある京都大学の防災研究センターで近年の災害の様子や鴨川が

氾濫した場合、どのように水が流れていくのか、洪水の進み方を実験結果を基につくられたシミュレーションなど、映像を見ながら講義を受けました。その後、シミュレーションの基になった



が流れる階段を上る体験や、何センチの水がたまればドアが開けられなくなるのか等の体験をしました。

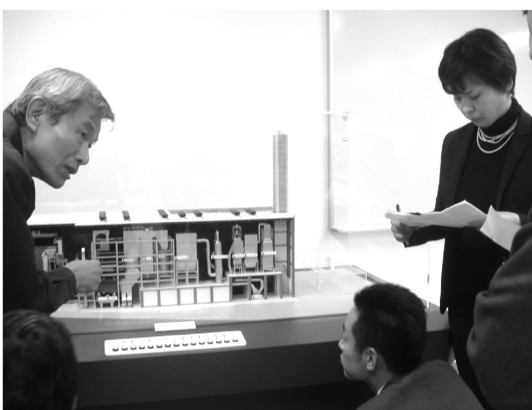
日本共産党市会議員団は災害時の対策として、地下街入り口の止水板を要求してきましたが、この日の視察で、ゼスト御池、地下鉄市役所前駅にはどのように水が流れ込むのかのシミュレーションでは、30センチの止水板で地下への浸水が止まることが明らかになりました。

実験施設を見学。

水の威力、洪水の怖さを体験しました。実際に水が30センチたまった場合にどのくらいの勢いで階段を流れ落ちるのか、水

## 危険・ムダ遣い・環境破壊 焼却灰溶融施設は廃炉しかない!!

醍醐の山の中にある焼却灰溶融施設で試運転のスイッチが入れられたのは2009年の12月。その後は、事故を繰り返してきました。市民や議会から「中止すべき」の声が上がる中、昨年7月に住友重機械工業から「30の機器を改修して2013年8月末に引き渡す」と連絡がありました。改修工事が進められてきましたが、2月ごろには試運転を始めることになりそうです。少なくとも6カ月の試運転が必要で、動かせば運転経費は3年目からは毎年20億円が必要です。京都市にとっても大きな財政負担が必要な焼却灰溶融炉は中止すべきです。ごみ減の努力こそ必要です。



事故を繰り返す焼却灰溶融施設  
(写真は2011年11月の事故状況を調査する共産党市会議員団)